



***** 分科会・研究会情報 *****

JEMS・BMS 研究会活動報告

■精度管理試験

第12回精度管理試験について、第73回BMS定例会で計画案を提示した。菌株の追加(TA97, WP2uvrA/pKM101等)について会員にアンケートを行い、今後の精度管理試験の対象とする菌株を検討する。第12回より世話人は倉上真樹会員が務める。

■共同研究

1) 3菌株(TA97, TA97a, WP2uvrA/pKM101)のAmes試験データの収集に関する第2回共同研究
11種類の弱変異原性物質の試験データが収集された。このうちの4物質を対象とし、TA97, TA97a, TA1537のサルモネラ菌株について、2倍法、平均+2SD [upper 2SD] および99%信頼限界上限 [99% UCL] を用いた解析・解釈を行った。第73回定例会では、上記の結果および既報の2物質の結果をふまえたサルモネラ菌に関する最終結論を報告した。
現在、WP2uvrA/pKM101およびWP2uvrAで試験した5物質の解析を進めており、次回定例会では大腸菌に関する最終結論を報告予定である。

2) Ames試験菌株の全ゲノム解析に関するBMS pilot study

第72回定例会で進捗報告した内容をJEMS第54回大会で「各施設におけるTA100株の感受性の違いについての一考察(BMS pilot study)」という演題名でポスター発表した。

■Ames試験講習会

Ames試験講習会の開催希望についてBMS研究会員およびJEMS会員を対象にアンケートを行った結果、一定数の参加希望の回答が得られた。したがって、以下の予定にて第4回の講習会を開催する。

内容：レクチャー（原理/手順）、特性確認、前培養、プレインキュベーション、プレート観察などのAmes試験手技

対象：初級者

場所：慶應義塾大学薬学部（東京都港区）予定

時期：2026年7月11日（土）～12日（日）予定、1泊2日

費用：7～10万円程度（宿泊費用・別）

募集人数：16名

更新情報については、BMSのサイト(<http://aquah.s241.xrea.com/so-net/index.html>)、BMS会員向けのメーリングリストあるいはJEMSメルマガ等にて周知する予定。

■BMS研究会第73回定例会

第73回定例会をJEMS第54回大会前日の2025年11月21日（金）16:15～18:00に開催した。世話人は羽倉昌志会員が務めた。当日の参加人数は50名程であった。次回（第74回）定例会開催地（横須賀）告知、Ames試験講習会アンケート結果、会則変更予定等の連絡の後、倉上会員より精度管理試験に関するアンケート告知がなされた。引き続き、古濱彩子会員から「(Q)SARの基礎とQAFへのいざない」として(Q)SARおよびQAFに関する解説がなされた。「3菌株(TA97, TA97a, WP2uvrA/pKM101)のAmes試験データの収集に関する第2回共同研究の進捗報告」が井上陽子会員から報告された。最後に、「Ames試験の限界と改良の方向性」として羽倉会員からAmes試験に関する講義が行われた。

JEMS・MMS研究会活動報告



2025 年の JEMS・MMS 研究会の主な活動は以下の通りであった.

1. MMS 研究会第 86 回定例会

2025 年 6 月 2 日 (月) から 3 日 (火) にかけて大分県日田市はなの樹 RIVER TERRACE にて定例会を開催した. 参加者は演者らも含めて 57 名であった. 総会では、会員数の進捗や会則の変更に関する情報共有に加え、2024 年度の会計報告および 2025 年度の会計予算が承認され、年会費滞納者の問題や会費の有効活用の課題等が報告された. また幹事選挙結果の報告と新幹事の紹介が行われた. 2 日間で以下のプログラムを通じて、活発な議論が行われた.

【プログラム】①共同研究進捗報告、②招待講演：赤堀会員による「NAMs に関する国際動向」、③グループディスカッション、④海外関連学会活動紹介 (IWGT2026 トピック紹介、GTA2025 参加報告)、⑤招待講演：崇城大学 石田誠一教授による「肝細胞の 3 次元培養と MPS の技術開発で、病態解明や創薬を支援する」、⑥自社ラボ紹介・ナイトセッション (本間正充前国立医薬品食品衛生研究所長から、次世代へのメッセージ).

2. MMS 研究会第 87 回定例会

日本環境変異原ゲノム学会第 54 回大会の前日 2025 年 11 月 21 日 (金) に対面形式で開催した. 本定例会では共同研究報告に加え、招待講演：Dr. Stefan Pfuhrer による「Use of Error Corrected Sequencing technology for human reconstructed skin tissues and HepaRG cultures」が行われた. また、小山幹事から会則変更 (3 項：活動③その他の活動内の「d) Standard Protocol の検討」及び「e) Mutation Research 誌の賛助団体として、投稿に便宜を図る」の記載の削除) に関する提案がなされ、削除することで決議された. 共同研究費や研究会活動に関する予算の決済権限の明確化に関して、次回以降の定例会で再度議論することが提案された. また、志賀野会員から次回第 88 回春の定例会の会場や日程に関する情報共有がなされた.

3. 会員の受賞

- ・ JEMS 第 54 回大会 研究奨励賞
「Pig-a アッセイプロトコールの精緻化と国際発信による OECD テストガイドライン化への貢献」
千藏 さつき 会員 (Axcelead Tokyo West Partners 株式会社)

4. 2025 年の共同研究の成果

＜論文＞

- 1) Matsumura S, Hosoi S, Hirose T, Otsubo Y, Saito K, Miyazawa M, Kawade A, Hakura A, Kakiuchi D, Asakura S, Koyama N, Okada Y, Chikura S, Kimoto T, Masumura K, Suzuki T, Sugiyama KI. Whole genome mutagenicity evaluation using Hawk-Seq™ demonstrates high inter-laboratory reproducibility and concordance with the transgenic rodent gene mutation assay. *Genes Environ.* 2025;47.

5. 幹事活動等

- ・ MMS 通信
2025 年は計 10 回
- ・ 幹事会
2025 年はオンライン・オンサイト計 4 回実施し、春・秋の定例会開催内容や会則の変更、幹事の分担等を協議した.

6. 今後の予定

幹事会では、会員アンケート調査結果等を基に 2026 年度の春の定例会について議論を行った結果、メディフォード株式会社が世話人となり、千葉県銚子市での宿泊を伴う対面開催を決定した. 詳細については MMS 通信等で案内する. また予算の決済権限に関する会則変更については、次回定例会にて再度議論する.

(文責 : MMS 会計幹事 松村獎士)

変異機構研究会「2026年度 夏の学校」開催予告

2026年度 変異機構研究会「第37回夏の学校」について

2026年度「第37回夏の学校」は8月30日(日)～31日(月)に大阪府最南端の岬町「淡輪ハウス」で1泊2日の合宿形式で開催を準備中です。会場へは新大阪から約1.5時間、関空から約30分、南海電鉄淡輪駅下車徒歩3分です。詳細は決定次第、JEMS ウェブページのほか、メルマガ等でもお知らせいたします。参加申込みは2026年の6・7月頃になる予定です。みなさまのご参加をお待ちしております。

(文責: 世話人代表 川西 優喜)